

いつも一緒 富山のペットたち

「あれ、うちの子の目がおかしい」と皆さんが感じられるのはどんな時でしょうか。目が赤い、目が白くなった、目が開けられない、目脂がとても多くて目が見えていないかもしれない、いつも涙でウルウルしているなどが挙げられると思います。



神田 俊克

かんだアニマルホスピタル院長
(砺波市豊町)

目の病気

図1は目を正面から見たものです。上下のまぶたがあって、まぶたが生えています。目玉は人間と違って黒目がちです。難しい名前が並んでいますが、このへんこの認識があれば十分です。

図2は目の断面図です。こちらで見ていただきたいのは、目玉は決して肉の塊ではないという点です。

「前房・後房」は眼房水という水で、また「硝子体」は明白よりやや硬めのゼリー状の液体で、それぞれ満たされています。いわば、目玉は水風船のような物なのです。その水風船から視



エリザベスカラーを首に巻いた犬。目の病気に
かかったら、手足が目に触れないようにしよう

目に手足触れさせない

神経というケーブルが延びていて、目から入った情報を脳に伝えていきます。

どこが赤い？

それでは症状についてお話しします。

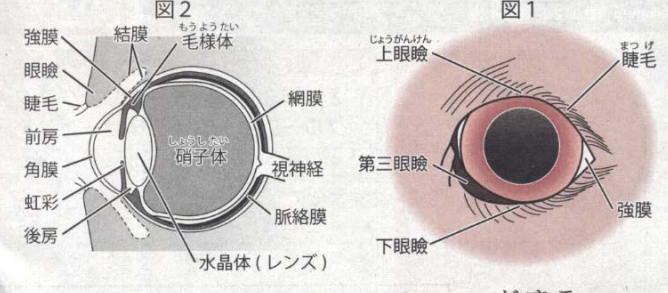
まずは「目が赤い」です。ここで問題になるのは、どこが赤くなっているのかです。まぶたなのか、まぶたの内側の結膜なのか、それとも目玉のすぐ上のか。それとも目玉の中なのか。強膜なのか、目玉の中なのか。場所により考えられる病気は異なりますし、治療法も当然変わります。

続いて「目が白い」です。最も多いのは、水晶体が硬く白く変わっていく白内障です。基本的には加齢とともに症状が進んでいくことが多いのですが、若いうちに急速に進行する場合

や、糖尿病の発症に伴って症状が現れることもあります。そのほか、なんらかの理由で目に重度の感染や炎症が起り、黒目全体が灰色がかった色に変化します。

目脂が増える病気はたくさんあります。パッと顔を見た時、目の表面に潤いが全く感じられない、よく見ると目の周りに白い膜が付いている、異音や目玉そのものに目脂が張り付いている、といった症状がある場合は要注意です。

涙が出なくなっている可能性があります。動物たちが自分で自分の病気を知らせ、長期間の療養が必要となるよりは、動物と人間の双方に幸せな結果をもたらされるのではないのでしょうか。



2013(平成25)年11月7日
北日本新聞

病状悪化に注意

治療には点眼薬や内服薬、軟こうを使ったり、手術をしたりするのですが、一つ大きな問題があります。言葉(道理)が通じないこと。富山のペットたちは、毎月第1木曜日に掲載します。

「〇〇をしていないこと。」「〇〇をしていないのは病気が治らないから、やめてはいけない」という当たり前の話が、患者本人に通じません。

ですから、目をこすったり、目に触ったりしないように「エリザベスカラー」を首に巻き、顔の周りに壁を築いて手足が目に届かないようにすることが非常に重要です。

カラーを着けると、病気が一段落するまでは窮屈な生活を余儀なくされます。でも、動物たちが自分で自分の病気を知らせ、長期間の療養が必要となるよりは、動物と人間の双方に幸せな結果をもたらされるのではないのでしょうか。